

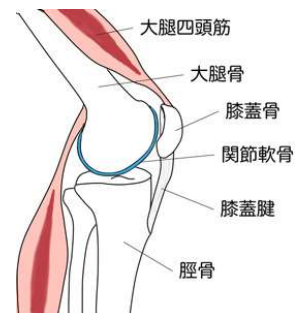
## 整形外科疾患

### 膝関節領域

膝関節は大腿骨（太ももの骨）・脛骨（すねの骨）・膝蓋骨（お皿の骨）で成り立っています。

骨の形が特徴的で、股関節・足関節と比較すると、不安定な関節です。それを支えるために靭帯・半月板といった骨以外の組織が発達しており、重要な役割を果たします。

言い方を変えると、それらが損傷する疾患もたくさんあるということです。



疾患は大きく分けて、

- ▶ 骨、軟骨が損傷する
  - 骨性疾患：変形性膝関節症、離断性骨軟骨炎 etc.
- ▶ 靭帯、半月板が損傷する
  - 軟部組織疾患：前十字靭帯断裂、半月板損傷 etc.

に分けることができます。

### 骨性疾患

#### ■ 変形性膝関節症

膝関節の骨の表面にある軟骨がすり減ってしまい、骨同士が擦れ合っ痛みや炎症が生じている状態です。

骨同士が擦れて、骨の形が変形してしまうため、「変形性膝関節症」と呼ばれます。

#### \* 症状

歩行時の膝の痛み、O脚・X脚変形、曲げ伸ばしの制限など、膝周辺に多彩に及びます。

#### \* 治療

まずは保存的治療を行います。

痛みが継続する場合は、手術加療が考慮されます。

#### \* 手術

大きく分けて関節温存術と関節置換術があります。

### ▶ 関節温存術（骨切り術）



この手術が適応となるのは、

- ・中等度変形：内側（もしくは外側）に変形が限定している
- ・良好な可動域：膝がよく曲がる
- ・活動度が高い：70 歳前後までの方です。

適応が限定的ですが、徐痛効果に優れるだけでなく、自分自身の関節を温存するため、術後の制限は全くありません。正座・アクティブスポーツ・マラソンなども可能です。

### ▶ 関節置換術（人工関節）



この手術が適応となるのは、

- ・重度変形：内側・外側どちらも変形を認める
- ・可動域制限：膝が伸びない、曲がらない
- ・病歴：関節リウマチ、血友病など基礎疾患があるなど、関節温存術が適応とならない全ての方です。

歩行機能の改善・徐痛に優れた成績を残しています。ただし正座のような大きい関節可動域を期待出来ません。一般的な運動に関しては制限ありません。

人工関節置換術を行うことで、歩く時の膝の痛みが改善するため、生活の行動範囲が広がり、充実した人生を送るための大きな手助けになります。

## ■ 離断性骨軟骨炎、軟骨損傷

スポーツ中の怪我などで、骨に付着している軟骨のみが剥がれ落ちてしまうことがあります。軟骨の骨折と考えることができます。

### \* 症状

継続した歩行時・運動時の膝痛、違和感を訴える方が多いです。

### \* 治療

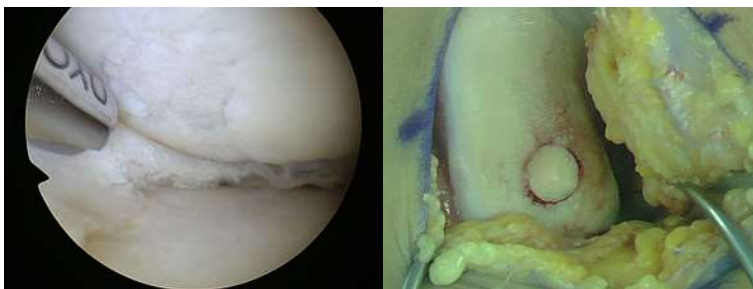
保存的治療、手術加療があります。

損傷部の大きさ・場所によって治療法が変わります。

### \* 手術

骨軟骨移植術という手技を行います。

膝の機能に影響しない部分の軟骨を、損傷している部分へ埋め込みます。



術後成績も良好で、スポーツ復帰も可能です。

## 軟部組織疾患

### ■ 前十字靭帯損傷

前十字靭帯とは、膝関節が不安定にならないように、大腿骨と脛骨をつなぐ、とても強力な靭帯です。スポーツによる膝外傷での頻度が高く、バスケットボールやバレーボール、サッカー、スキーなどでよく発生します。ジャンプの着地や急な方向転換などでの発生が多いです。

#### \* 症状

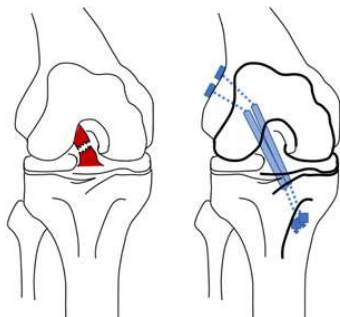
受傷時は激しい痛みを伴いますが、徐々に改善し、2-3週間で歩行が可能となります。しかし、膝の靭帯は断裂したままなので、不安定感、膝が抜ける感じ、が生じることが多いです。

#### \* 治療

前十字靭帯は、一度切れてしまうと自然治癒の可能性はほぼありません。そのため靭帯再建術を行います。

#### \* 手術

関節鏡というカメラを用いて、できる限り低侵襲で行います。再建に用いる靭帯は、患者さん自身の腱を移植する方法を行っています。



## ■ 半月板損傷

半月板は、膝関節の内側と外側にそれぞれある、軟骨の一種であり、膝にかかる負担を分散したり、衝撃を吸収したりする働きをしています。

膝をひねったり、衝撃が加わったりして損傷することが多いです。

### \* 症状

損傷すると、運動時の痛みや、曲げ伸ばしした際に引っ掛かり感が出現します。

損傷した半月板が、骨の間に嵌まり込んでしまい、激痛を伴いながら膝が動かなくなる可能性もあります。

### \* 治療

保存的治療と手術加療があります。

患者さん自身の症状・活動度・スポーツの種類などによって治療法が異なります。

### \* 手術

関節鏡というカメラを用いて低侵襲で行います。

傷んでいる部分を切除する場合や、縫合する場合があります。



以上が代表的疾患となります。もちろんそれ以外の治療も行っております。

あくまで簡略的な説明であり、外来診察時に、患者さんと相談しながら治療方針を決定しております。患者さん、ご家族と情報を共有し、お互いに納得して治療を行うことを重要と考えています。

ひとえに膝痛といっても、原因は多岐にわたります。痛みに悩みながら生活するのではなく、一度当院へ受診頂き※、一緒に改善の道を探しましょう。

※受診の際は、紹介状をお持ちください